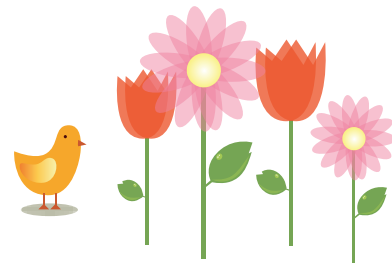


溶連菌感染症について



溶連菌感染症とは、A群β溶血連鎖球菌という細菌による感染症をいいます。春から夏にかけてと、冬季の2つの時期をピークとする流行が見られます。咳やくしゃみなどでうつる飛沫感染で、4、5才から小学生のお子さんに多く流行し、学校や園、あるいは家庭内でも（大人を含めて）うつしあうこともあります。合併症を引き起こす事があり、注意が必要です。

●症状

溶連菌がのどに感染し、2～5日の潜伏期のあと、熱、咳、のどの痛みが出てきます。体のだるさがあったり、手足が真っ赤に腫れたり、体にブツブツ発疹が出たり、舌がイチゴの表面の様にブツブツした状態（イチゴ舌）になったりすることもあります。

●治療

のどの検査で溶連菌感染がはっきりしたら、抗菌薬（抗生物質）の使用が基本になります。治療開始後、丸1日～2日で熱は下がり、のどの痛みも1週間以内に治まることが殆どですが、再発や合併症（リウマチ熱、腎炎など）を防ぐため、抗菌薬を10日～14日間飲みます。途中で止めず、処方された抗菌薬は飲みきることが大切です。

●合併症

溶連菌に感染してから数週間後に、以下のような合併症がまれに見られます。

- ①急性腎炎：突然尿量が減り、血尿、むくみ、高血圧が出現します。まれに急激な血圧の上昇のためにけいれん、嘔吐などを伴う場合があります。
- ②アレルギー性紫斑病：お尻から下肢にかけて紫色の出血斑が出たり、腹痛や関節痛、むくみが出たりします。
- ③リウマチ熱：突然の発熱と関節痛、心臓の炎症に伴う胸の痛みなどが現れます（溶連菌感染時の抗菌薬の服用が普通になり、最近では殆ど見られなくなりました）。

●登園・登校

抗菌薬を飲み始めて24時間以上たてば伝染性は殆どなくなります。

治療開始後24時間は登園・登校禁止となりますが、それ以降は登園・登校可能です。

●こんな時には再診を

- ・治療が始まって2日以上経過しても熱が下がらないとき。
- ・同じ時期に家族内でのどの痛みや熱があれば、その方も受診をお勧めします。
- ・治ったあと数週間たってから合併症が出る場合があります。尿の色が変化したり、むくんだり、元気が無くなっている様子があれば、早めに受診しましょう。

医療法人社団めぐみ会

南大沢メディカルプラザ2 小児科



ふじい やすし
藤井 泰志 医師

日本小児科学会認定小児科専門医
東洋医学会漢方専門医

〒192-0364

東京都八王子市南大沢 2-25 フォレストモール南大沢 2F

TEL: 042-670-5922

<http://www.m-medicalplaza.com/s/>

